



清風会  
林 太樹  
議員

## 女性活躍社会の推進について

**問** SDGsで女性活躍に焦点を当てたのは、本市が初めて。国際社会が認めるロールモデルの策定とは。

**答**市長 日本で一番進んでいないのが男女共同参画社会で、世界で最低クラス。無償労働の男性社会の理解は全く進んでいない。国連では実態を報告したが、2030年に向けKPIを作り、見える化する大変な作業となる。鯖江は女性の就業率、労働力、共働き率は高い。今後は見える化し数値目標をいかに立てるかが課題。女性活躍推進計画と第5次男女共同参画プランの策定、子ども・子育て支援事業計画の見直しを20年に向けて見える化し、女性が活躍できる鯖江の土壌をロールモデルとして発信していくような工夫をしていきたい。

## いじめ問題について

**問** ネットいじめから子供を守る情報リテラシー教育は。

**答**教育長 ネットいじめは表に出にくく、いじめの温床になりやすいため、危機意識を持って啓発活動を継続的に行っている。学校へのスマホ等の持ち込みは、小中学校

では原則禁止になっている。国が緊急時の連絡手段として検討する方針。本市としては、学校の社会環境や児童・生徒の状況の変化を踏まえ、学校や保護者と協議しながら慎重に対応する。情報モラル教育を含めた情報リテラシー教育の一層の充実を進めていきたい。

## 教員の働き方改革について

**問** 新学習指導要領による新たな指導内容における教員の負担増は。

**答**教育長 小学校での取組は、外国語活動・外国語科、プログラミング教育、道徳科の3点。英語は全小学校に外国人講師を派遣。プログラミングは現在の教科に取り込み、道徳科の評価は既存の方法を生かすことで、負担軽減を図る。

**問** 教員の多忙化解消の取組は。

**答**教育長 学校運営支援員を市内に16名、部活動指導員を3中学校に配置。中学校の超過勤務が課題。教員にとって適正な業務であるか効率的かを確認し、管理職との面談の中で確認し合う。

## 機構改革について

**問** めがねのまちさばえ戦略室の組織改革に伴い取組をどう強化するのか

**答** 秘書広報課とめがねのまちさばえ戦略課に改組し、秘書広報課では、市民にふるさとに誇りと自信を持っていただき、愛着度を高める取組や、幅広い層の皆様、めがねのまちさばえの認知度の向上を図り、ブランド力向上を目指す活動など、市内外への情報発信活動、すなわちシティプロモーション活動を強化していく。

また、めがねのまちさばえ戦略課では、本市のSDGsの目標達成に向け、新年度では、男女共同参画プランや女性活躍推進計画など女性活躍人権推進業務を担い、総合戦略の着実な推進と一体となってSDGsの推進につなげていく。

**問** 交通まちづくり課の設置が、並行在来線運営会社の設立や特急存続、北陸新幹線への接続など、総合交通に関する業務を担当するに当たり関係各社と連携が十分に取れる課となるよう要望するが。

**答**市長 交通まちづくり課の設置については、4年後には北陸新幹線敦賀開業と冠山トンネルが開通、そして6年後には大阪万博、

8年後にはリニアの名古屋開通と変革の時代を迎えるので、交通網の整備は大きな課題だと考えている。

JRの三セク化に高速道路のインター、それに幹線交通網に福武線問題、冠山トンネルの開通に伴う中京圏との連携など地理的条件を活かした中、福井県で生き残れる、そして中核的なまちとなるよう鯖江のまちづくりを将来的な計画で早期に進める必要がある。その中心となるよう交通まちづくり課を整備したい。

**意見** 冠山トンネルの開通に伴う、国道417号線の道路整備や中部縦貫道の開通と全体を考え交通網の整備を進めてもらいたい。

## その他の質問

○子育て支援について

○鯖江市奨学金一部償還免除制度の実施について



市政同志会  
佐々木 一弥  
議員